


介護・福祉ネットみやぎ速報

発行者 NPO 法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ
責任者 渡辺 淳子

☎ 022-276-5202

022-276-5205 

みんなで考えよう介護保険！みやぎ県民フォーラム2019を開催しました

12月14日（土）13時からエルパーク仙台ギャラリーホールにおいて、介護事業者、従業者、利用者、関連団体、一般市民など107人が参加し、開催されました。宮城学院女子大学畑山みさ子名誉教授、NPO 法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ内舘昭子理事長、宮城県社会保障推進協議会刈田啓史郎会長、社会福祉法人仙台ビーナス会高橋治会長、公益社団法人「認知症の人と家族の会」宮城県支部若生栄子代表、宮城県保険医協会井上博之理事長、社会福祉法人宮城厚生福祉会丹野広子理事長の7人が呼びかけ人となり、実行委員会構成団体の13団体が主催しました。（下段参照）

「介護の社会化」をめざし、2000年より施行された介護保険制度は、近年大きく改定され、サービス給付範囲の縮小、介護保険利用料などの国民負担が増大しています。

一方で現在の介護報酬では事業者が抱える経営困難を打開できず、介護現場の人員不足は深刻さを増しています。利用者に行き届いた介護が保障され、介護職員が専門性を発揮し生き生きと働き続けられる介護保険制度が求められています。

だれもが安心して使うことができる介護保険制度を実現するために、現在の課題を共有し、どのような改善を望んでいくのか考え、行動する機会として、3回目となる「みんなで考えよう介護保険！みやぎ県民フォーラム2019」を開催しました。

第1部は「介護保険20年-介護の現状と課題、運動の方向性」と題して、全日本民主医療機関連合会事務局次長林泰則氏を迎え、介護保険制度の歴史と今後について講演いただきました。

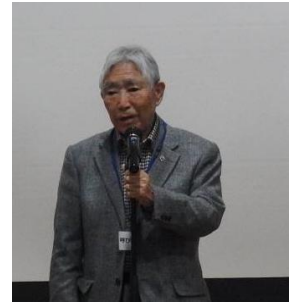
介護保険制度は施行20年目の節目となる。法施行20年を振り返ると度重なる制度改悪が行われてきた。社会保障・税の一体改革の重要な柱として掲げられた医療・介護の一体的見直しの中で進められている介護保険制度関連の改定では、「介護の社会化」から「介護の自己責任化」へ介護保険の本質を転換する方向で進んでいる。このような中、政府内では2021年介護保険制度改定に向け検討が行われており、ケアプラン有料化や軽度者サービスの総合事業移行などさらなる給付の削減・負担増をはかる内容が盛り込まれている。高齢者の生活を守り・支える制度の実現を求め、地域から介護制度拡充のための運動を広げることが必要であると力強く話されました。

第2部は「介護保険制度をめぐる現状について」と題して、各分野からリレートーク形式で現場からの実態が報告されました。家族の立場から若生栄子さん（公益社団法人認知症の人と家族の会宮城県支部代表）、事業者の立場から佐藤由美子さん（合同会社フルール フルール介護ステーション所長）、専門職の立場から伊丹さち子さん（西中田地域包括支援センター所長）、実態調査報告を当法人渡辺淳子事務局長らがそれぞれの立場で意見を述べました。

最後に公益財団法人宮城厚生協会永井知枝さんから集会決議案が提案され、満場の拍手で採択されました。

【実行委員会構成団体】

NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ、社会福祉法人仙台ビーナス会、社会福祉法人宮城厚生福祉会、宮城県生活協同組合連合会、公益財団法人宮城厚生協会、宮城民医連事業協同組合、公益社団法人認知症の人と家族の会宮城県支部、宮城県保険医協会、宮城県社会保障推進協議会、宮城県医療労働組合連合会、宮城県民主医療機関連合会、全国福祉保育労働組合宮城支部、みやぎヘルパー介護労働者連絡会（順不同）



社会福祉法人仙台ビーナス会
高橋治会長より開会挨拶



全日本民主医療機関連合会事務局次長
林泰則氏の講演

みんなで考えよう介護保険！ みやぎ県民フォーラム 2019 アピール

本日、私達は「利用者も、事業者も、働く人も、大事にする介護保険を！」をテーマに、「みんなで考えよう介護保険！みやぎ県民フォーラム 2019」を開催しました。

「介護の社会化」を目指し制定された介護保険制度発足から20年－介護保険制度は改悪が重ねられ、介護をめぐる情勢はよりいっそう深刻さを増しています。

利用者には保険料の負担増と給付の削減が続き、さらにはケアプランの有料化、要介護1・2の生活援助サービスの切り離しが狙われています。担い手不足の中でのサービスの減少、人材難の中で経営も厳しく、十分な介護報酬による介護人材の処遇改善の必要性について、それぞれの立場のみなさんと認識を共有し、運動の方向性を確認しました。

このままでは、これまで要介護者を支えてきた家族・事業者・働く人が、利用者を支えきれない状況になってしまいます。介護保険制度を支える根幹である担い手が不足し、「介護保険あってサービスなし」、「必要なサービスが受けられなくなる」などの状況が今まで以上に深刻化することは明白です。

私たちは安心して介護サービスを受ける事のできる介護保険制度を願っています。

このフォーラムに参加した働く人、利用者、利用者を支える家族、事業者が手を取り合い、介護保険制度をより良いものとするために、一人ひとりがこの実態を国へ、自治体へ、身近な様々な方へ語り広げましょう。

私たちは本フォーラムを契機に「利用者も、事業者も、働く人も、大事にする介護保険」を共に実現するため、以下のことに取り組みます。

1. 利用者・家族への負担増・給付削減となる改悪に反対し、改善を求めます。
2. 介護の担い手の処遇を改善し、人員増・サービス増加をすすめ、誰もが利用できる介護保険を求めます。
3. すべての方が必要な介護を受けられ、安心できる介護保険制度を求めます。

上記を実現するために、国に対して要望を出すとともに、団体・事業所の賛同署名を集め、国への意見書を出すように県議会・市町村議会へ働きかけます。

2019年12月14日

みんなで考えよう介護保険！みやぎ県民フォーラム 2019 参加者一同